

## 医療薬学4（循環器・中枢神経疾患の病態と治療）

責任者・コーディネーター	神経科学分野 駒野 宏人 教授、分子細胞薬理学分野 弘瀬 雅教 教授、臨床医化学分野 那谷 耕司 教授		
担当講座・学科(分野)	神経科学分野、分子細胞薬理学分野、臨床医化学分野		
対象学年	4	区分・時間数	講義 18時間
期間	前期		
単位数	1単位		

### ・学習方針（講義概要等）

本講義では、これまでに学んだ、生化学、機能形態、薬理学に関する知識を基に、循環器系・中枢神経系疾患について疫学、病態生理、臨床検査法、薬物治療に重点を置き、最適な診断・治療について理解を深める。

### ・教育成果（アウトカム）

循環器系・中枢神経系疾患について疫学、病態生理、臨床検査法、薬物治療の基礎的な知識を学ぶことにより、循環器系・中枢神経系疾患に関する本事項を修得し、最適な薬物治療について討議・提案できるようになる。  
(ディプロマ・ポリシー：2, 4, 6, 7, 9)

### ・到達目標（SBO）

1. 不安神経症（パニック障害と全般性不安障害）、心身症について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択)を説明できる。(608)
2. 片頭痛について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療について説明できる。
3. てんかんについて、病態・薬物治療を説明できる。(609)
4. パーキンソン病・認知症について、病態・薬物治療を説明できる。(611,612)
5. 統合失調症、うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、病態・薬物治療を説明できる。(608)
6. 多発性硬化症、筋委縮性側索硬化症、薬物依存症、アルコール依存症について説明できる。(602,616)
7. 中枢神経疾患の社会生活への影響および薬物治療について討議できる。(615)
8. 不整脈および関連疾患について疫学、病態、症状、臨床検査法および薬物治療を説明できる。(635)
9. 急性および慢性心不全について疫学、病態、症状、臨床検査法および薬物治療を説明できる。(636)
10. 虚血性心疾患について疫学、病態、症状、臨床検査法および薬物治療を説明できる。(637)
11. 高血圧症について疫学、病態、症状、臨床検査法および薬物治療を説明できる。(638)
12. 急性および慢性腎不全、慢性腎臓病(CKD)、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、糖尿病性腎症、薬剤性腎症について疫学、病態、症状、臨床検査法 および薬物治療を説明できる。(647,648)

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/9	火	1	分子細胞薬理学分野	弘瀬 雅教 教授	<p>循環器疾患の病態と治療 その1 不整脈と関連疾患</p> <p>1. 上室性期外収縮、心室性期外収縮、心房細動、発作性上室頻拍、WPW 症候群、心室頻拍、心室細動、房室ブロック、QT 延長症候群や関連疾患について、治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明出来る。</p> <p>2. 上記不整脈および関連疾患の薬物治療について説明出来る。</p> <p>3. 上記不整脈および関連疾患の病態生理、症状等について説明出来る。</p> <p>事前学習：教科書の講義内容に該当する分野を読んでおくこと。 事後学習：講義内容を書き留めたノートと講義資料を参考にして、自分でまとめておくこと。</p>
4/16	火	1	分子細胞薬理学分野	弘瀬 雅教 教授	<p>循環器疾患の病態と治療 その2 急性・慢性心不全、心原性ショック</p> <p>1. 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明出来る。</p> <p>2. 心不全の薬物治療について説明出来る。</p> <p>3. 心不全の病態生理、症状等を説明出来る。</p> <p>4. 心原性ショックについて概説出来る。</p> <p>事前学習：教科書の講義内容に該当する分野を読んでおくこと。 事後学習：講義内容を書き留めたノートと講義資料を参考にして、自分でまとめておくこと。</p>
4/23	火	1	分子細胞薬理学分野	弘瀬 雅教 教授	<p>循環器疾患の病態と治療 その3 虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患</p> <p>1. 狭心症や心筋梗塞を始めとした虚血性心疾患の治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明出来る。</p> <p>2. 虚血性心疾患の病態生理、症状等を説明出来る。</p> <p>3. 虚血性心疾患の薬物治療について説明出来る。</p> <p>4. 弁膜性、先天性心疾患について概説出来る。</p>

					<p>事前学習：教科書の講義内容に該当する分野を読んでおくこと。</p> <p>事後学習：講義内容を書き留めたノートと講義資料を参考にして、自分でまとめておくこと。</p>
5/7	火	4	分子細胞薬理学分野 分子細胞薬理学分野	弘瀬 雅教 教授 高橋 将文 非常勤講師	<p>循環器疾患の病態と治療 その4 高血圧症、閉塞性動脈硬化症 (ASO)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本態性高血圧症や、腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を始めとした二次性高血圧症の治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明出来る。</li> <li>2. 高血圧症の病態生理、症状等を説明出来る。</li> <li>3. 高血圧症の薬物治療について説明出来る。</li> <li>4. ASO について概説出来る。</li> </ol> <p>事前学習：教科書の講義内容に該当する分野を読んでおくこと。</p> <p>事後学習：講義内容を書き留めたノートと講義資料を参考にして、自分でまとめておくこと。</p>
5/14	火	3	臨床医化学分野	那谷 耕司 教授	<p>腎疾患の病態と治療 その1 急性および慢性腎不全、慢性腎臓病 (CKD)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性および慢性腎不全、慢性腎臓病 (CKD)の治療薬について、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。</li> <li>2. 急性および慢性腎不全、慢性腎臓病 (CKD)の病態生理、症状等について説明できる。</li> <li>3. 急性および慢性腎不全、慢性腎臓病 (CKD)の薬物治療について説明できる。</li> </ol> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学習：予め配布してある講義レジメおよび「薬がみえる vol.1」の該当する範囲を読んでおくこと。</p> <p>事後学習：講義で説明した範囲のレジメを見直し、改めて出欠確認問題を解いてみる。</p>
5/21	火	1	臨床医化学分野	那谷 耕司 教授	<p>腎疾患の病態と治療 その2 ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、糖尿病性腎症、薬剤性腎症</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、糖尿病性腎症、薬剤性腎症の治療薬について、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。</li> <li>2. ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、糖</li> </ol>

					<p>尿病性腎症、薬剤性腎症の病態生理、症状等について説明できる。</p> <p>3. 薬剤性腎症、腎盂腎炎の薬物治療について説明できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>【対話型授業】</p> <p>事前学習：予め配布してある講義レジメおよび「薬がみえる vol.1」の該当する範囲を読んでおくこと。</p> <p>事後学習：講義で説明した範囲のレジメを見直し、改めて出欠確認問題を解いてみる。</p>
5/28	火	1	神経科学分野	駒野 宏人 教授	<p>中枢神経疾患の病態と治療 その1</p> <p>1. 不安神経症（パニック障害と全般性不安障害）、心身症および薬物依存症、アルコール依存症について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択)を説明できる。</p> <p>【対話型授業】</p> <p>事後学習：授業で配布された資料をしっかりと復習すること。</p>
6/4	火	1	神経科学分野	駒野 宏人 教授	<p>中枢神経疾患の病態と治療 その2</p> <p>1. 統合失調症、気分障害、片頭痛について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療について説明できる。</p> <p>【対話型授業】</p> <p>事後学習：授業で配布された資料をしっかりと復習すること。</p>
6/11	火	1	神経科学分野	駒野 宏人 教授	<p>中枢神経疾患の病態と治療 その3</p> <p>1. 認知症について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療について説明できる。</p> <p>【対話型授業】</p> <p>事後学習：授業で配布された資料をしっかりと復習すること。</p>
6/18	火	1	神経科学分野	駒野 宏人 教授	<p>中枢神経疾患の病態と治療 その4</p> <p>1. パーキンソン病について治療薬の薬理、および病態・薬物治療について説明できる。</p> <p>【対話型授業】</p> <p>事後学習：授業で配布された資料をしっかりと復習すること。</p>
6/25	火	1	神経科学分野	駒野 宏人 教授	<p>中枢神経疾患の病態と治療 その5</p> <p>1. プリオン病、筋委縮性側索硬化症、</p>

					筋ジストロフィーについて、病態・薬物治療について説明できる。 【対話型授業】 事後学習：授業で配布された資料をしっかりと復習すること。
7/2	火	1	神経科学分野	駒野 宏人 教授	中枢神経疾患の病態と治療 その6 1. てんかんについて治療薬の薬理、および病態・薬物治療について説明できる。 2. 中枢神経疾患の社会生活への影響および薬物治療について討議できる。 事後学習：授業で配布された資料をしっかりと復習すること。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	薬がみえる vol.1 神経系の疾患と薬 循環器系の疾患と薬・腎・泌尿器系の疾患と薬	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2014
教	病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2017
教	病気がみえる vol.8 腎・泌尿器 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2014

・成績評価方法

レポート(10%)、確認試験(10%)、定期試験(80%)で評価する。

・特記事項・その他

授業に対する事前・事後学修（予習・復習）の時間はそれぞれ30分を要する。  
シラバスを参考にして、該当する内容を教科書・参考書で予習しておくこと。また、講義で用いたプリントおよび教科書の該当する箇所は復習しておくこと。  
課題や確認試験については、その都度返却して解説を行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（パナソニック、CF-SX2）	1	講義資料の閲覧